

### 高学年

小学校高学年におけるキャリア発達課題を達成していくためには、「自分の役割や責任を果たし、役に立つ喜びを体得する」「集団の中で自己を活かす」「社会と自己の関わりから、自らの夢や希望をふくらませる」という視点が大切である。ここでは、「四つの能力」ごとに、実践するに当たってのポイントをまとめてみる。

#### 【人間関係形成・社会形成能力】

集団の中で自己を生かすためには、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々と適切にコミュニケーションをとり協力して活動する必要がある。そのためには、「児童が自他のよさや個性に気付くことのできる場を意図的に設定すること」が大切である。その際、相手に対して思いやりの気持ちをもちながら、自分の考えを適切に伝えることのできる「コミュニケーション能力を育てる」ことが重要である。

また、集団の中で自分の置かれている状況を受け止め、自らの役割を果たしつつ積極的に他者と協力・協働していくような態度を形成していくことも大切である。



#### 《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることができる。
- 規範意識をもち、社会におけるルールや相手との約束を守るなど信頼される行動をとろうとする。
- 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。
- 人のために役立つことをしようとする。(クラブ活動「地域の方に発表しよう」)
- 他者の意見を聞き、自分の考えを広めることができる。(6年国語「意見交換をして考えを広げよう」)

#### 【自己理解・自己管理能力】

高学年の児童は学校行事や児童会活動、異学年集団での活動などで中心となって活動する機会が多くなり、自分の役割や責任を自覚して活動するようになる。

児童が自分の役割や責任を果たす多様な活動を通して、役立つ喜びを体得し、周囲から認められる経験をすることは、自己肯定感をもち、失敗を恐れずより高い目標を掲げ様々な役割を担うことへ挑戦しようとする態度を育てることができると考えられる。

児童の自立心や自律性を重視しつつ、計画段階や実践の場における継続的な支援をすることにより、児童が困難を乗り越えて目標を達成できるように、児童一人一人に自己を活かす機会を保障することが求められる。

また、学校生活に限らず、家族や社会の一員としての自分の役割を考え、自分のできることについて考えるようにすることも大切である。



#### 《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 自分の役割の必要性を理解し、責任をもって役割を果たそうとする。
- 自分の気持ちをコントロールしながら、前向きに考えて挑戦できる。
- 自分自身の将来について考えることができる。(6年外国語「My Future, My Dream」)

- 自己実現に向け、今の自分ができる取組みを決めることができる。（6年学級活動(3)ア)「中学生に向けて」)
- 自己の成長を感じることができる。（5・6年学校行事「運動会の目標を立てよう」)

### 【課題対応能力】

児童が働くことや学ぶこと、自分の将来を考えることの大切さに気づき、社会における様々な役割についての情報を収集・探索する力を身に付けることも、児童が生き方を選択したり課題を解決したりしていく上でおろそかにすることはできない。実感を伴って勤労や職業に関する理解を深めることができるように、体験活動を意図的に取り入れていく必要がある。



また、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることが重要となる。情報機器や図書などを効果的に活用して、幅広く知識を得たりする活動を確実に経験できるようにしたい。

#### 《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 必要な情報を収集して解決しようとする。
- 課題を発見し話し合い解決する。（5年学級活動(1)「思い出カルタをつくろう」)
- 解決方法を工夫して解決しようとする。（6年理科「電気の利用」)

### 【キャリアプランニング能力】

各教科等の学習においても、様々な職業に触れる機会が多くなる。働くことや自分の将来を考えることの大切さに気づき、社会における様々な立場や役割を意識するなど、自分の将来に目を向ける児童が多くなる時期でもある。「働くこと」の意義や多様な生き方についての理解、目標の設定やその実現に向けた行動や改善などについて、学校生活の多様な場における経験や家庭生活での経験を通して気付かせたい。



特に、「キャリア・パスポート」については、この時期に、それまでの学校生活と将来の夢や希望とを関連付けながら、中学校生活での目標を具体化させるなど効果的に活用することで、中学校生活への期待をふくらませることに役立つ。

#### 《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 将来のことを考える大切さが分かる。
- 夢や目標に向かってあきらめずに努力することの大切さが分かる。
- 自分に必要な力について考えることができる。  
（6年総合「これからの自分に必要な力について考えよう」）  
（5年社会「情報を生かして発展する産業」）

## 《学級活動(1)ア》 学級や学校における生活上の課題を発見し、解決しようとする態度を育てる

### 議題 5-4思い出カルタをつくろう

#### ねらい

学級における生活上の課題を発見し、話し合いを通して、みんなにとってよりよい解決となるよう考えることができる。

#### 本議題とキャリア教育

本議題は、「残りわずかとなった5年4組のよい思い出や、みんなの心が一つになったことを出し合って、思い出に残る活動をしたい」という願いの実現に向けて生まれた議題である。今回のカルタづくりと次の議題であるカルタ大会をすることを通して、1年間の学級での思い出を形とし共有することが、一人一人の学級への所属感をより高めていくことにつながる。お互いのよさに改めて気づき、みんなと学級目標の達成を目指すことで、残りの学級生活をより充実させることができる。学級活動は課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を解決しようとする態度を育むことに関わる活動といえるだろう。

### 全体構想

#### 議題発生

##### 5-4 思い出カルタを作ろう

#### 提案理由

5-4の仲間と過ごす時間が後わずかとなりました。コロナでいつもとちがう大変な生活をしたけれども、楽しい思い出もたくさんありました。そこで、今までの思いを伝え合い、クラスみんなの絆をもっと深まるように思い出カルタをつくろうと思いました。①

#### (計画委員会)

「話し合うこと」「決まっていること」の検討  
役割決め  
活動計画作成

#### 予告

議題に対する個人カードへの記入 ② ③

#### 話し合い(本時)

準備

集会 ④

振り返り ⑤



#### キャリア・カウンセリングの例

5-4の生活も後少し。まだ、思い出を振り返られてないね。



この集会をすることで、どんなクラスを目指したいと思っているのかな?



クラスの絆をもっと深めたいな。

大変なこともたくさんあったね。大変だったけど、みんなと協力してきたっていうそんな思いが話し合いに出てくるといいね。

つくったカルタはその後どうするの? 個人的には教室に飾りたいけど……。

ぼくは、友達と交換したい。

後を見通して考えるのは、大切ですね。三つ目の「話し合うこと」にしてみるのはどうだろう。

発表できたね! ナイスチャレンジでした。意見を言ってみてよかった?

よかった! みんなにも「がんばったな」って言ってもらえました。

※児童の自主的・実践的活動であることが大前提である。キャリア・カウンセリングの効果的な活用が大切である。

**本時のねらい**

- 学級で一年間過ごした思い出を共有する中で、喜び合ったことや達成感があったことを出し合い、みんなにとってよりよい活動内容を考えることができる。

**実践のポイント**

**事前のキャリア・カウンセリングを充実させる。**

学級活動での、キャリア・カウンセリングにおける教師の役割は例えば次のようなことがあげられる。

- ① 活動の質を高める(議題選定・提案理由)
- ② 児童の活動の幅を広げる(個人カードへの記入)
- ③ 思考を深める(個人カードへの記入)
- ④ 児童の人間関係を深める(準備・集会)
- ⑤ よい学びに気付かせる(振り返り)



主体的な課題解決となるよう、児童の発言を最大限に傾聴し、児童の思いを引き出そう。教師はよき指導者ではなく、よき「支援者」に徹することが大切である。

**展開**

【議題】 5 - 4 思い出カルタをつくろう	
学級会のプログラム	決まっていること
1 始めの言葉 2 議題の確認 3 提案理由の説明 4 決まっていることの確認 5 話し合い	・ 次の学級会の時間に思い出カルタをつくる(2月12日4校時 教室) ・ つくったカルタで「カルタ大会」をする(2月25日 体育館) ・ 1人ずつ取り札2枚, 読み札1枚をつくる ・ 取り札の大きさは画用紙8つ切り
話し合いの流れ	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
【話し合うこと①】 カルタには何を書くか	○ 提案理由に基づいて5年4組ならではの思い出について話し合えるよう助言する。 ◎ 具体的な思い出を例に挙げた話し合いにすることで、カルタのイメージがもちにくい児童に対する一助とする。 ☆ 喜び合ったことや達成感があったことを出し合い、学級での思い出が詰まった内容を考えることができる。(観察)
【話し合うこと②】 役割はどうするか	○ 話し合うこと②では、実践するための必要な役割を決定できるよう留意し、抜けがある場合は会員の立場として助言する。
【話し合うこと③】 カルタ大会後にカルタをどのように活用するか	○ 多様な活用ができるよう助言する。
6 決まったことの確認 7 先生の話 8 終わりの言葉	◎ 話し合いのよかった点と課題を具体的に伝え、次の活動に向けた意欲付けを行う。

《社会》情報化が進む社会で「働くこと」に目を向ける

単元名 情報を生かして発展する産業（第5学年）

ねらい

様々な産業における情報の活用の仕方について調べ、国民生活に果たす役割を考え、産業を発展させたり国民生活を向上させたりしていることを理解できるようにする。

本単元とキャリア教育

本単元では、情報や情報通信技術を生かして発展する産業について調べることを通して、産業と自分たちの生活との関わりについて考える。情報や情報通信技術を活用して、情報化が進む社会で働く自分自身の今後の在り方まで考えることができるようにすることで、「キャリアプランニング能力」を培うことにつなげることもできる。

全体構想

主な学習活動	時数
コンビニエンスストアの利用経験を基に、販売業における情報や情報通信技術の活用について話し合い、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         販売業では、情報や情報通信技術をどのように活用して売り上げを上げているのだろうか。                     </div>	1
コンビニエンスストアでは、情報や情報通信技術を生かしてどのような工夫が行われているのか調べる。 ・客のニーズに応える販売の工夫 ・商品管理や配送の工夫 ・サービスの広がりや他の産業とのつながり	3
販売業や運輸業において、情報や情報通信技術を活用して発展している事例について調べる。	3
情報や情報通信技術を活用して産業が発展することと自分たちの生活との関わりについて考えをまとめる。	1 (本時)

**【関連学習】**  
 学級活動(3)アイ  
 情報を上手に活用しよう  
 (1時間)

- ・情報を上手に生かして社会で活躍している人が、情報活用の際に大切にしている行動を知る。
- ・自分の将来の目標を見据えて、大切にしたい情報活用に関する行動を考える。

本時のねらい

- 情報や情報通信技術を活用して産業が発展することと、自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。

実践のポイント

様々な産業が情報化を進め発展していくことが、社会全体の動きや自分たちの生活の変化に直結していくことを理解させ、情報化が進む社会で働く自分自身の今後の在り方と現在とを関連付けて考えることができるようにし、「キャリアプランニング能力」の育成につなげることもできる。

展開 (8/8 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 販売業など、様々な産業において情報や情報通信技術を活用して発展していることを振り返る。	○ 情報や情報通信技術の活用が産業を変え、自分たちの生活の変化にもつながることに気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p>情報や情報通信技術を活用して産業が発展することと、自分たちの生活との関わりについて考えをまとめよう。</p> </div>		
展開	2 情報や情報通信技術を活用して産業が発展することのよさと課題について整理する。 ・産業の発展により自分たちの生活の利便性が向上したこと。 ・国民は適切な情報を見極める必要があること。	◎ 販売業や運輸業の事例で調べたことをもとに、情報を活用して産業が発展することのよさと課題について整理させる。
	3 情報や情報通信技術を活用して産業が発展を続けることで自分たちの生活はどのように変化していくか、産業や国民の立場を踏まえて、話し合う。	◎ 情報や情報通信技術を活用して産業が発展することのよさと課題を踏まえ、これからどのように産業は発展し、国民生活は変化していくのかを多角的に考えようとしている。
まとめ	4 情報化社会のよさや課題を踏まえ、情報化による産業の発展と自分たちの現在や将来の生活との関わりについて、自分の考えをまとめる。	☆ 情報化による産業の発展と自分たちの現在や将来の生活との関わりについて、自分の考えをまとめることができる。

《外国語》 中学校生活や将来について考える

単元名 My Future, My Dream (第6学年)

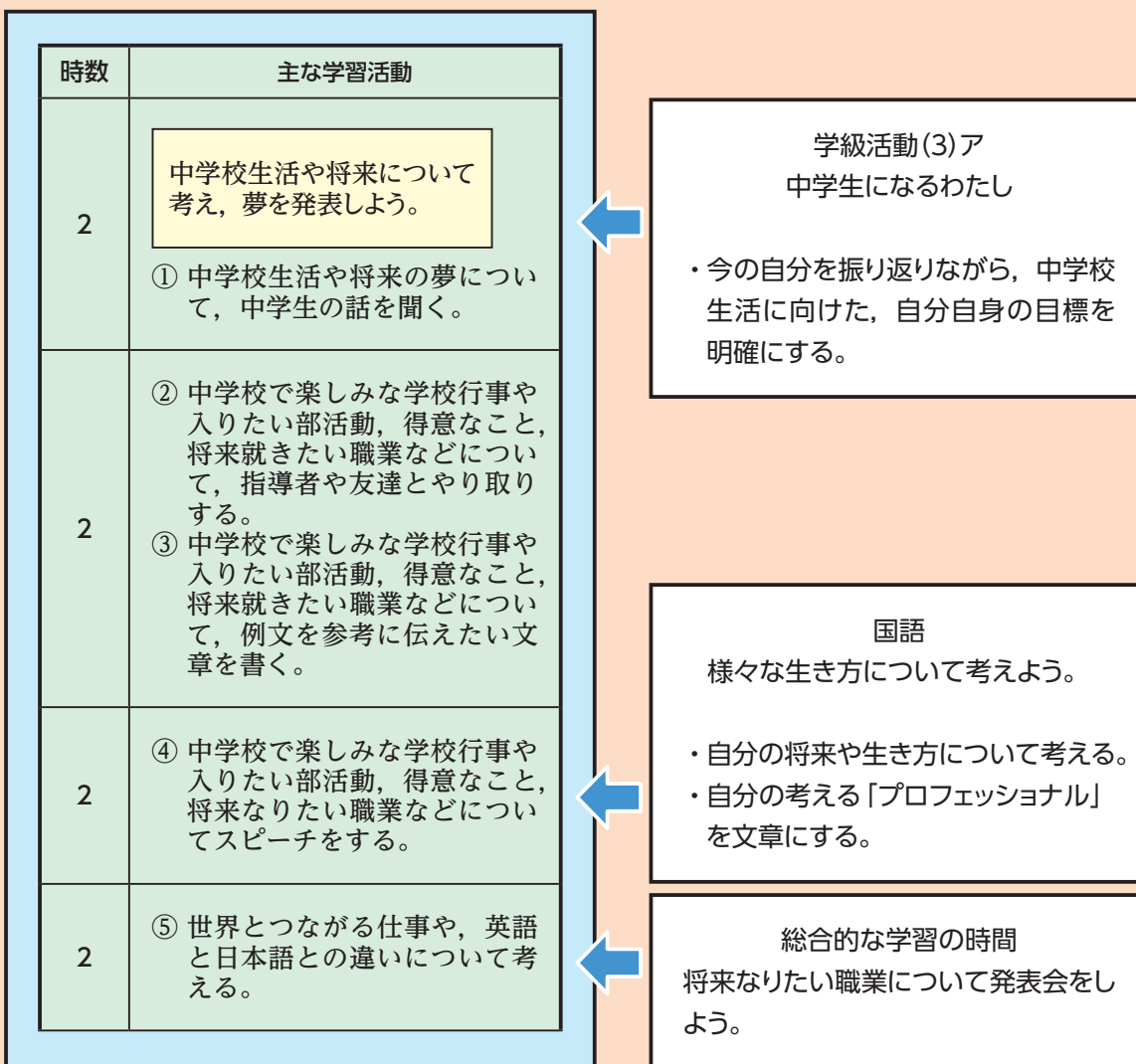
ねらい

中学校生活や将来について考え、話を聞いて、その概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。

本単元とキャリア教育

本単元では、中学校生活や将来の夢などについて、伝え合ったり、話したりすることができるようにする。小学校生活を振り返りながら活動を進めることで、自己理解を深め、新たなステージの目標を意識することができるようになる。中学校生活への期待をふくらませることに役立つ。

全体構想



本時のねらい

- 中学校生活や将来の夢などについて、その概要を伝え合ったり、話したりすることができる。

実践のポイント

実際に進学する中学校の様子をリアルに伝える。

進学先の中学校の学校行事や部活動について、紹介スピーチを予め録画しておいて視聴させたり、中学校配属のALTに紹介してもらったりするなど、実際の中学校の様子がリアルに伝わるような工夫をするとよいだろう。

シンプルに伝えるよさを生かす。

英語で表現できることはシンプルなので、自分の思いと端的に向き合うことができる。自分自身を振り返ることを大切にしながら、英語でシンプルに伝え合うことを通して、中学校生活への希望がふくらむようにする。

展開 (3/8 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 小学生と中学生による、中学校生活や将来の夢についての対話を聞き、「楽しみたい行事」と「得意なこと」を聞き取る。  ○○○中学校の行事を知ろう。	○ 実際に進学する中学校では、どのような行事があるのか関心をふくらませることができるようにする。
展開	2 ○○○中学校の行事の様子を知る。 3 楽しみたい学校行事や得意なことなどについて、指導者や友達とやり取りする。 4 ○○○中学校の行事の内、自分が楽しみたいと思う行事を選択し、例文を参考に伝えたい文を書く。 5 中学校で楽しみたい学校行事や得意なことなどについてたずね合う。	○ ALT が作成した行事紹介動画を視聴させ、中学校生活への関心を高める。 ◎ 自分自身のこれまでの小学校生活を振り返り、今の自分とのつながりを意識しながら選択できるようにする。  ☆ 自分が中学校で楽しみたい行事や得意なことを英語で話している。
まとめ	6 振り返る。	○ 進学に向け、期待がふくらむようにする。



《理科》生活とつながる問題解決

単元名 電気の利用 (第6学年)

ねらい

電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、発電や蓄電、電気の変換についての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、より妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

本単元とキャリア教育

本単元では、電気の働きや利用について学習し、自分自身で電気を利用した物をつくることに挑戦する。問題解決の活動を行うことを通して、電気の性質や働きを利用してより良い生活につなげようとする意識を高めることにつなげる。

全体構想

主な学習活動	時数
電気をつくる ・電気と自分たちの暮らしとの関わりについて問題を見いだす。 ・手回し発電機や光電池を使うと、発電することができることをまとめる。	2
電気の利用 ・電気は、蓄電したり、光、音、熱、運動などに変えたりして利用できることを調べ、まとめる。 ・豆電球と発光ダイオードの特長を捉える。	1
電気の有効利用 ・センサーで明かりをつけたり消したりするといったプログラミングを体験する活動を通して、電気を効率的に使うための工夫について考え、まとめる。	4
電気を利用した物をつくろう ・これまでの学習を生かして、電気を利用した物を作る。 ・電気の働きや利用について学習したことをまとめる。	5

【他教科とのかかわりの例】

家庭科  
季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方(3時間)

- ・暑い日はどのように過ごしているだろう
- ・すずしく快適な住まい方を知ろう
- ・エコ生活ですずしさをアップしよう

家庭科  
環境に配慮した生活(4時間)

- ・自分の生活と身近な環境との関わりを考えよう
- ・物の使い方やエネルギーをどう使うか
- ・環境に配慮した生活を続けよう

### 本時のねらい

- センサーを使用して明かりをつけたり消したりするといったオリジナルプログラムを考えることを通して、自分たちの生活の中にある身近なものが、電気を効率的に使用できるように工夫されていることを理解する。

### 実践のポイント

センサーは、身近な照明器具などにも活用されるなど、生活の様々な場面で用いられていることを確認する。その上で、より良い社会のために、電気の性質や働きなど理科で学習した内容を利用しようとする意識を高める。

### 展開 (4/5 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 前時に設定した問題と使用するセンサーの閾値（センサーが反応する値）を確認し、解決への見通しをもつ。  <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; text-align: center;">             センサーを使って電気を効率的に使うプログラムをつくろう。           </div>	○「電気を無駄なく使うために、センサーで必要なときだけ電気を使うこと」を意識しながら問題の解決に当たることを確認する。
展開	2 センサーの示す数量と個人が感じる「程度」の関係を示し、閾値を意識しながら、各自が解決したいことに沿って、センサーを使ったプログラムを考える。 (プログラム例) ・光センサーで、暗くなったら、電気がつく。 ・人感センサーが人を感じたらメッセージが流れる。 ・振動センサーが揺れを感じたら指示をする。 3 グループでプログラムを紹介し合い、閾値の設定やプログラムの組み方について検討する。 4 できあがったプログラムを全体で共有する。	◎ 自分の身の回りにあるものを想起しながら、プログラムを考えるよう言葉がけを行う。  ○ 電気を「効率的」に使えるかという視点でプログラムの実行を確かめるようにする。
まとめ	5 学習を振り返る。	◎ 電気の性質や働きが、生活の中で役立つものとなっているという意識を高める。 ☆ 身の回りには、電気の働きを目的に合わせて制御したり、電気を効率よく利用したりしている物があることを捉える。

### 《国語》 これからの社会の生き方について交流し、自らの考えを広げる

#### 単元名 「意見交換をして考えを広げよう」

##### ねらい

複数の文章を重ねて読み、それぞれの筆者の主張を捉えたうえで、これからの社会の生き方について自分なりに考えをまとめ、他者と交流することで考えを広げていくことができる。

##### 本単元とキャリア教育

この単元では学習の最後に「これからの社会でどう生きていくか」というテーマで意見文を書き、交流する活動を設定することができる。インターネットを利用する機会も増え、児童も多くの情報に触れている。また一方で、手軽に文字や映像でやり取りできる通信手段が発達し、直接のコミュニケーションは減る傾向にある。筆者が取り上げた話題に対して、児童自身が自分の経験を基に考え、情報化社会の中でどう生きていくかについて、自分の意見と他者の意見との相違点を明確にした上で交流することで自らの考えを広げる機会とするとともに、コミュニケーション能力を育てることにつながる。

#### 全体構想

##### 〈第1次〉(1時間)

- ・これからの社会と生き方について話し合うという活動への見通しをもつ。

##### 〈第2次〉(5時間)

- ・「メディアと人間社会」、「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取り、感じたことや考えたことをそれぞれまとめる。
- ・二つの文章を比べ、それぞれの特徴や共通点を整理する。
- ・それぞれの文章から、自分の考えを書き出す。
- ・「これからの社会でどう生きていくか」というテーマで自分の意見をまとめる。
- ・まとめた内容を基に、グループで話し合う。
- ・話し合いを通しての感想を交流する。
- ・グループでの意見交換を通して深く考えたことを基に、意見文を再構成する。

##### 〈第3次〉(1時間／本時)

- ・意見文を基に、パネルディスカッションを行い、話し合う。
- ・話し合いを通しての感想を交流する。
- ・単元全体を振り返る。



本時のねらい

- 文章を読んでまとめた社会や生き方についての意見を共有し、自分の考えを広げることができる。

実践のポイント

「これからの社会でどう生きていくか」本気で語れる場づくりを。

本実践では、テーマの内容について、いかに具体的に話を進められるかにポイントを置いた。そうすることで、表面的な意向や願望に終始することなく、現在抱えている問題や社会への参加の仕方について当事者意識をもって話し合いを進めることができる。実践では「メディアとの付き合いはますます深くなるだろう。」というパネリストの主張について、「家の人が、職場の人からスマホを持っていることを前提に仕事を指示されたことがある。」という話をフロアが展開し、教師からの「中学校に行って、スマホがある前提で友達と付き合うのはどうか?」という問題提起から交流を更に深めるなど、単元で学んだ学習内容から発展的に自分の生き方についてそれぞれが考えを広めることができた。一人ひとりが、事前に自分の意見を書き出してまとめていたこと、パネルディスカッションの形式を取り入れたことに効果があったように思う。本気で考え、自ら語りたくなるような場づくりの設定を工夫できるとよい。

また、友達のよいところを認め励まし合う発言が、自然と見られる討論でもあった。そのような様子を教師が価値付けることで、多様な他者を理解し、協力・協働し生活しようとする態度をより一層養うことができるだろう。

展開 (7/7 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。  <b>社会や生き方についての意見を共有し、自分の考えを広げよう。</b>	◎ 話し合いの目的を事前に伝えておくことで、めあてをより意識した活動にする。
展開	2 パネリストの主張を聞き、自分の考え方と共通している点や異なる点についての意見を述べる。  3 会場の参加者（フロア）も交えて全体でディスカッションする。	○ 考えが出にくい児童には、自分の意見文を見返すように促し、自らの主張と比較させる。  ◎ 他者との意見交流を積極的に促し、自分の考えを広げさせる。 ☆ 文章を読んでまとめた社会や生き方についての意見を共有し、自分の考えを広げている。
まとめ	4 単元の学習を振り返る。	◎ 話し合いそのものを振り返り、価値付ける。 ○ 単元の学習計画や学習課題と照らして振り返りを書く。

## 《学級活動 (3) ア》 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を形成する

### 題材 「中学生に向けて」

#### ねらい

なりたい自分になるためには、周りの人とのよりよい人間関係を築きつつ、これからの生活で強い決意をもち、努力することが大切であることに気付き、今後の生活の仕方を意識して改善することができる。

#### 本題材とキャリア教育

本題材は、小学校生活が残り少なくなった今、これまでの成長や頑張った姿を振り返り、将来を考えることで、自分のよさや可能性の広がり気付き、残りの小学校生活に目標やめあてを設定し、主体的に実践していこうとする意欲を育むものである。事前に「キャリア・パスポート」を見返し、これまでの自分と向き合うことで自尊感情が高まり、本時の活動がより有意義なものとなる。自分が「できること」「したいこと」「なりたい自分」について、身の周りの人との相互関係を保ちつつ、中学校での自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力を養うことができる。

### 全体構想

1年生～6年生2学期 「キャリア・パスポート」の蓄積

6年生3学期

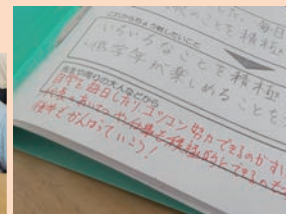
事前① 中学校生活に向けてのアンケート記入

事前② 中学校での入学説明会と部活動見学への参加

☆事前③ 「今」の自分を知ろう



「キャリア・パスポート」に見入る児童



【音楽会 友達や、小学校のみんなの姿で心に残ったことを書きましょう】

みんなの頑張っている姿があったおかげで自分も頑張れた。努力してきたかがあったと思えた。

【自然学校 ここが『成長』しました】

自然学校で、クラスみんなのやさしさが分かって、もっと、みんなと楽しむことができるようになったと思います。

友達から

- A児 やさしくなった。
- B児 そのとおり。やさしくなった。
- C児 体育のときも、みんなと楽しめている。
- D児 そのとおり。楽しめている。

【運動会を振り返って】

1年生から5年生には「やっぱり6年生はレベルが違う。近づけるように頑張ろう」と思ってもらえるようにしたいと思っていました。今までで、一番いい演技をするために、とにかく「一生けん命」にやりました。児童席から「お～」と言ってもらったりはく手をしてくれたりで、うまくできました。これからも、どんな困難があっても、「一生けん命」に最後までがんばろうと思いました。

本時 中学生に向けて

事後 めあての達成に向けて実践し、振り返る。

⇒毎日の「頑張りカード」の記入、自己評価。努力している児童の紹介等。

本時のねらい

- 目指す中学生の姿に向けての、具体的な個人目標を意思決定することができる。

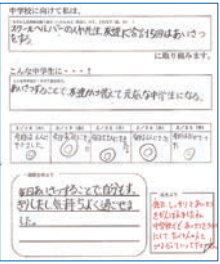

実践のポイント

「キャリア・パスポート」を振り返り、自分と向き合う時間を設定する。

本実践では、自己を見つめ直す活動を事前に行った。この時期の児童には、自分の長所や得意なことを見付けられなかったり書き出すことを躊躇したりする児童が見受けられる。そのような時、「キャリア・パスポート」で過去の自分の頑張っている様子を振り返り、友達、保護者、先生など身近な周りの人たちの肯定的な言葉を受け止めることが、自分のよさを認めることにつながる。

小学校生活で書き溜めた「キャリア・パスポート」を一枚一枚めくって見入る児童に教室は温かい雰囲気で見守られる。そのようなプロセスを経過することで、将来になりたい自分に向かって今後も前向きに取り組もうとする意欲を高めることができるだろう。また、実践後の先生からの一言も中学校生活の励みとなることだろう。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 中学校生活と今のつながりや学習することの意義、将来の展望などについての課題をつかむ。 2 理想の中学校生活についてそれぞれの思いを出し合い、目指す中学生の姿をさぐる。	○ 中学生に向けてのアンケート結果を共有したり、中学生の様子が分かる写真を見せたりすることで、みんなで楽しく進学したいという思いを深める。 ◎ 理想の中学生像や中学校生活を話し合うことで、目指したい中学生のイメージをしっかりともつ。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         中学校に向けて今できることを考えよう。                     </div>		
展開	3 目指す中学校生活に向けて自分たちが今から取り組めそうなことについて話し合う。	◎ 自分だけでなく、クラス全体で成長することを意識して考えるように促す。 ○ グループで出された意見を更に全体で共有することで考えを広め、多様な選択肢から意思決定できるようにする。 ☆ 目指す中学生の姿に向けての、具体的な個人目標を意思決定することができる。 (ワークシート)
まとめ	4 実現に向けて自分が取り組むことを意思決定し、発表する。 	◎ 思いを目に見える形にしたり発表したりすることで、実践への意欲を高める。 (板書イメージ) 

《学校行事》「キャリア・パスポート」を活用し、学校行事への意欲を高めたり、自己の成長を感じられたりする活動

## 題材 運動会の目標を立てよう

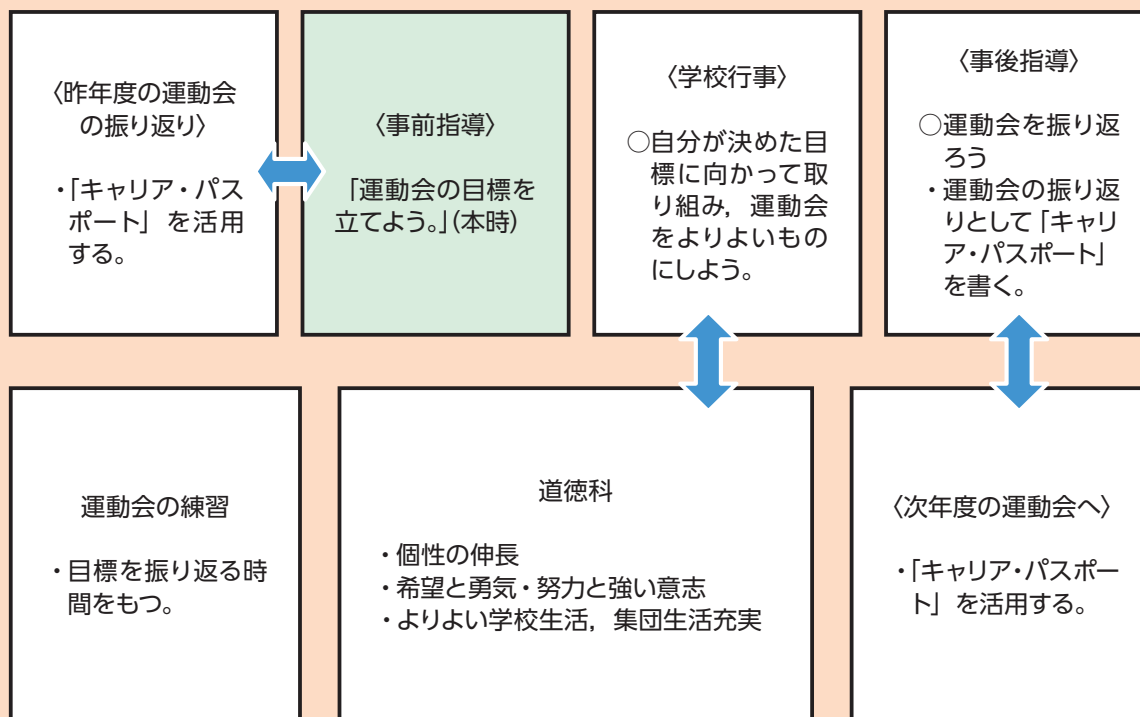
### ねらい

- 昨年度の運動会の振り返りを基に、運動会のめあてを立てることにより、明確な目標と高い意欲をもって行事に取り組むことができるようにする。
- 昨年度の振り返りから、一年間の自分の成長を見つめ、更に成長しようとする態度を養う。

### 本題材とキャリア教育

学校行事は、一人一人の個性を發揮しながら、集団としての一体感を感じられたり、自分の役割を果たすなどの責任感を培うことができたりする、児童の成長に大きく関わる場である。多くの学校でも、行事前に目標の設定や、行事後の振り返りが行なわれていると思われる。学校行事とキャリア教育を結び付けるために、本実践では、運動会という学校行事の振り返りを「キャリア・パスポート」の一部として扱うこととしている。「キャリア・パスポート」として学年をまたいで振り返りを引継ぎ、過去の自分と向き合って未来の自分を見つめていくことで、1年間の自己の成長が感じられるだけでなく、今後1年間の自己の成長にも思いを馳せることができる。「キャリア・パスポート」の活用にあたっては、学習指導要領に、学級活動(3)の指導で活用することが示されている。また、学校行事等の記録の活動のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなど学習過程を重視すること(「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項)と示されている。教師からの、次年度につながるコメントや児童同士の振り返りの交流も参考に、自分の意思決定につなげていきたい。

### 全体構想



## ねらい

- 昨年度の運動会についての振り返りを学級で話し合うことによって、今年度の運動会の学級目標を決めることができる。

## 実践のポイント

### 昨年度からのつながりを意識させる。

運動会後には、必ず振り返り、次年度につなげていくようにする。学校として、何を保存し引き継ぐのか共通理解をもっておく必要がある。

### 意思決定に際しては、教師の関わりを大切にす。

自己評価や目標の設定に際しては、教師の対話的な関わりによって一人一人の目標修正、改善などを支援する。その際、学級(学年)としての目標との関連や、求められている役割についても意識させ、発達の段階に応じた目標設定がされるようにする。

### 学級内で共有する。

意思決定したことについて、学級内で発表の場をもち、キーワードにまとめるなどして、学級として協力して取り組むことができるようにすることが大切である。

## 事前指導における展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 運動会に向けてのめあてを立てることを確認する。	○ 運動会の意義を確認し、目標をもつことの大切さについて共通理解を図る。
展開	2 昨年度の運動会の振り返りを基に、よかった点と改善点を話し合う。 3 よりよい運動会にするために、どのようなことに気を付けて取り組んだらよいか話し合う。 4 各自のめあてを立てる。	○ 発達の段階に応じためあてを意識して活動できるようにする。 ○ 「キャリア・パスポート」を見て振り返る。 ○ 昨年度のビデオ動画や上学年からのメッセージなど、よりイメージしやすくする手立ても考えられる。 ◎ 運動会に向けて頑張ることを具体的に意思決定する。
まとめ	5 学級全体で共有する。	☆ 「キャリア・パスポート」の目標や今年度の運動会までの練習を踏まえ、自己の成長に気付いたり今後の生活に生かそうとしているか。(カード)



《クラブ活動》個性の伸長を図るとともに、個性を生かしながら、人のために役立つことをしようという意欲を育てる

## 活動名 地域の方に発表しよう

### ねらい

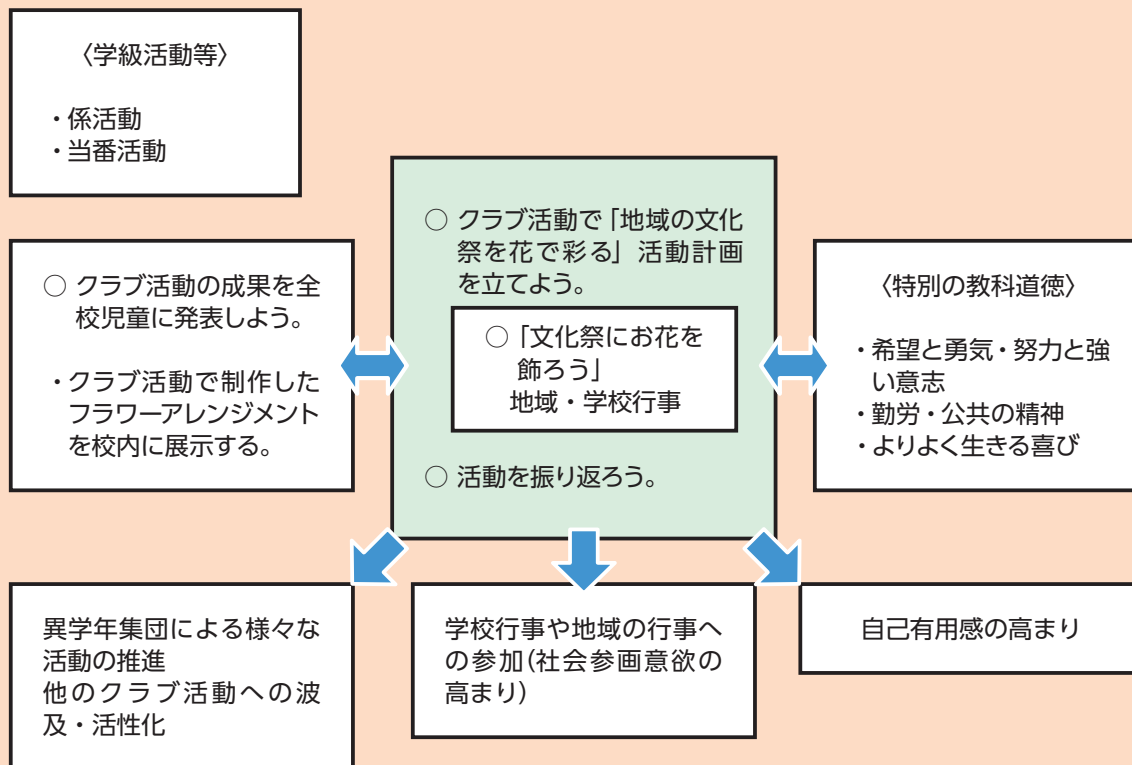
- 自身の興味・関心に応じた活動において、それぞれが自分の役割を果たしながら協力して活動の成果を発表するとともに、地域・学校行事に参画・貢献する喜びや達成感を味わい、更に興味・関心を深めていこうとする態度を育てる。

### 本活動とキャリア教育

学習指導要領には、「活動の成果について、クラブの成員の発意・発想を生かし、協力して全校の児童や地域の人々に発表すること。」と明記されている。それぞれの工夫やアイデアを生かしたり、自分の果たすべき役割について考えられるようにしたりすることが大切である。

本実践では、自分たちが一年間かけて活動してきたことを生かして、地域にその成果を発表する活動を行う。学年集団の活動により興味関心を深めるクラブ活動のよさを生かしながら、それぞれの発達の段階に応じてキャリア発達を支援していくことが大切である。全校児童への発表のみならず、地域へと発表の場を広げることで、地域の一員として地域に参画する態度を養い、また、周囲からの肯定的な評価を得られることにより、自己有用感が高まっていくことが考えられる。自己有用感の高まりは、今後も地域や学校のため、人のために活動していきたいという意欲につながっていくものである。

### 全体構想



本時のねらい

- フラワーアレンジメントの取組において、友達と協力することができる。
- 地域の行事へ前向きに参加しようとしている。

実践のポイント

地域の方の協力を得る。

クラブ活動の指導・協力者として地域の人材に協力を依頼する場合もあるだろう。その際、1年間の見通しや学校としての願いなど事前の話し合いをしっかりとっておき、同じ思いをもって活動することが大切である。


学校全体で協力する。

学校のみならず地域の行事への参加にもなる。主催の地域の方と連絡をしっかりと取り合うこと、一部の担当教師に負担がかかりすぎないように、学校全体として支援を行う。

児童の自発的・主体的な活動になるように工夫する。

1, 2学期のクラブ活動の中でしっかり活動し、互いのよさに気付けるようにしていくことが必要である。自発的・主体的な活動にするために、どのような作品で活動の成果を発表したいのか、自分たちの活動が生かせる方法に気付かせていくことが大切である。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 自分たちの活動を発表できる場について話し合う。	○ 自発的な活動になるように教師の関わり方に留意する。
展開	2 地域の文化祭にフラワーアレンジメントを飾る計画を立てる。	◎ 発達の段階に応じたためあてを意識して活動できるようにする。
	3 文化祭前日 異学年のグループで協力してフラワーアレンジメントをつくり、会場に飾る。 	☆ 中学年：役割意識をもって友達と関わりながら活動している。 ☆ 高学年：リーダーとしての自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを味わっている。(観察)
まとめ	4 文化祭後 活動を振り返り、感想を述べ合う。 協力してくれた講師の話聞く。	◎ 一人一人の頑張りだけでなく、異学年の友達と協力したからこそその成功であることをしっかり価値付けし、地域・学校の一員として地域の行事に参加することで得られる喜びや充実感を味わわせるようにする。
	5 集会や放送、掲示等で感想及び活動の様子などを紹介する。	○ 活動を振り返ることにより、有用感や次への意欲を高めるようにする。

## 《総合的な学習の時間》社会と自己の関わりから、自らの夢や希望をふくらませる

### 単元名 これからの自分に必要な力について考えよう（第6学年）

#### ねらい

- 地域で働いている人々と関わる活動を通して、地域社会を支える様々な職業や機関について理解し、自分が将来就きたい職業やなりたい自分像について考えるとともに、将来に向けて夢や希望をもつことができるようにする。

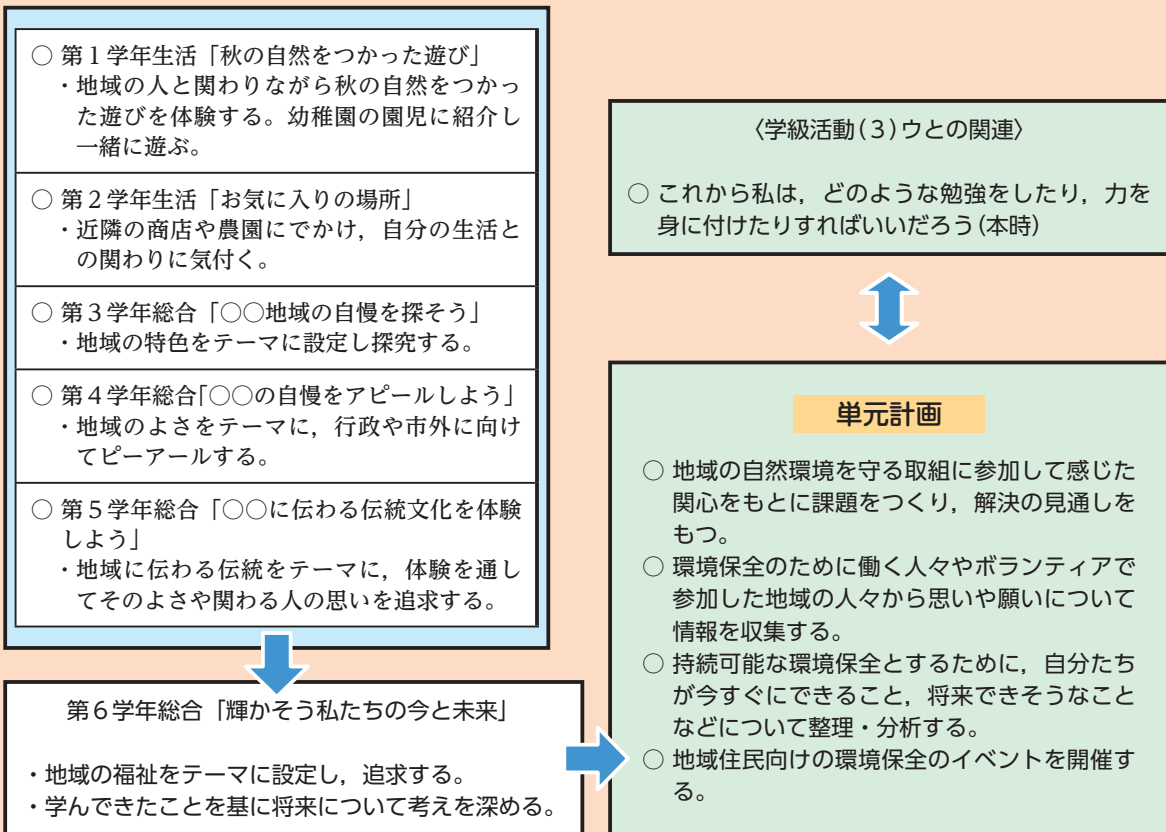
#### 本単元とキャリア教育

総合的な学習の時間の目標には「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくため」と示されている。

本単元では、児童が地域で働く人々と関わる活動を通して、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことや自己の「生き方」について考える学習を展開する。将来について考える機会が増える時期に本単元を設定できると考えられる。

実践に当たっては、学級活動(3)ウとの関連を図り、主体的に学ぶことについて学習を深めた後、総合的な学習の時間においては、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関するものの両方の視点を踏まえることから、将来展望・社会参画への意識を醸成することが大切である。

#### 全体構想



本時のねらい

- 地域住民と環境保全イベントを開催したことを振り返る活動を通して、地域の一員として地域社会を担うことについて考え、自分の将来に夢や希望をもち続けることができる。

実践のポイント

学級の中に互いの価値を認め合える風土を醸成する。

高学年の児童にとって、自己の将来について友達に表現することに抵抗のある児童もいることが考えられる。学級に互いの価値を認め合える風土が醸成されていることによって、受け入れてもらえる安心感をもって本学習に取り組むことができる。

総合的な学習の時間での人との出会いや、体験活動を振り返られるようにする。

体験活動から自分の将来について考えるために、働く人や地域住民の思いや願いを視点として振り返られるようにすることが大切である。そのためには、体験活動中の静止画や動画のほかに、インタビュー、アンケート、手紙などから、働くことの意味や自分の将来の生活について意見交換できるようにしたい。

特別活動や他教科等との関連を図る。

国語科での伝記の学習や、職業について書かれた説明的文章や学級図書などは職業観を学ぶ上で参考になる。特別活動の学級活動(3)との関連を図り、一人一人が将来に向けての意思決定ができるようにする。

展開 (34/35 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。  環境保全イベントの振り返りから、自分の将来で大切にしたいことをもてるようにしよう。	○ 本時の見通しをもてるように、学習活動を箇条書きで板書する。
展開	2 働く人や地域住民が大切にしていることで、共感したり、納得したり、驚いたことなどについて話し合う。  3 グループ活動において、学習活動2で話し合った内容を、「職業観」「人生観」「郷土愛」「社会への参画」などの視点で分類しながら、自分の考えを具体的に友達に伝える。(Xチャートの活用)  4 環境保全イベントの参加者からの手紙を読む。	◎ 友達の考えや思いを肯定的に受け止めたり自分の考えを進んで述べたりする。 ◎ 今の学びを大切にすることが将来につながっていくという実感をもつことができるように支援する。 ○ グループで交流し、友だちの意見を参考にしながら、付け加えたり、変更したりする。 ○ 学習活動4における環境保全イベントの参加者からの手紙は、次の内容を含むものを準備する。 ・社会の一員として期待されていること ・ボランティアする人になってほしいこと
まとめ	5 自分の将来で大切にしたいことや、今からでも自分にできることを振り返りシートに書く。	☆ 自分の将来に夢や希望をもち続けて、中学校でも頑張っていこうとする。